

## 【二段】

- 1 阿満が亡くなってからこのかた、夜も眠れない。
- 2 偶たままどろんでも、阿満を夢に見て涙がはらはらと落ちる、
- 3 身長は去年の夏、三尺（約九十センチ）に余るほどにもなり、
- 4 年齢は今年七つになっていた。
- 5 勉強に従事すれば人の道の基本である孝について学びたいと言い、
- 6 書を読めば（長篇の）帝京篇を暗誦してしまふような聡い子であった。

## 【二段】

- 7 薬であの子の激しい痛みを和らげてやれたのはわずか十日。
- 8 風があの子の体から遊離した魂を運び去ったのは九泉の国。
- 9 それ以来私は神を怨み仏を怨んだ。
- 10 （特に）当初はあまりの悲しみに呆然として天も地もないような思いだった。
- 11 （かつては）あの子がまとわりついて遊んだ我が両の膝を見てあざけり笑いたくなるような気持になるのは、
- 12 おまえの弟までも相ついでで亡くなって、夭折した一児をいっしょに葬らねばならなかったからだ。

## 【三段】